

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

精密金型メーカーから“プラスチック精密成形総合システム会社”へ

**不二精機株式会社
第2四半期決算説明資料
証券コード6400**

2014年9月5日HP公開



www.fujiseiki.com

2014年第2四半期の決算と今後の展望などをご説明いたします。

会社概要

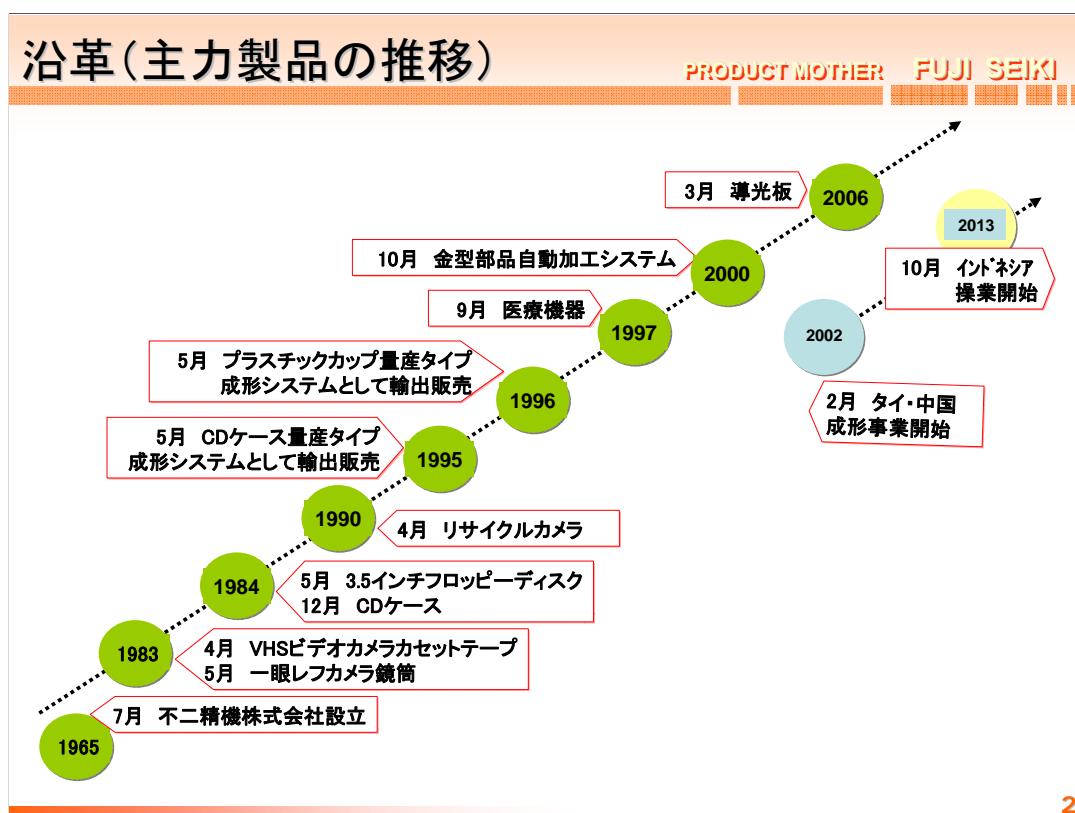
PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

1

当社の概要を紹介いたします。

沿革(主力製品の推移)

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI



2

当社は、1955年の創業以来、「精密金型」ひとすじに物づくりを行ってまいりました。

1984年頃からは、成形品1個当たりのコストが重視される大量生産品向けの金型が主力製品となりました。

1995年頃より、金型単体での販売だけでなく、顧客が求める成形品を生産するためには必要な生産設備(金型、成形機、取出し機、自動組立機等)も併せての販売(成形システム)が主力製品となりました。

さらに、現在の金型事業においては、金型より生産される成形品そのものの精密さを求められる、デジカメ等のズーム部分である鏡筒向け及び、ノートPC等用導光板向けの精密金型ならびに成形品、大量生産品である注射器等医療機器向けの精密金型及び成形システムが主力製品となりました。

初の海外進出を果たした2001年より成形品生産を開始いたしましたが、2007年より、二輪・四輪車の主に燃料噴射装置部品等の生産を開始し、中期戦略である自動車部品の売上構成比率の拡大を着実に進めております。

また、2013年10月より不二精機インドネシアの操業を開始し、東南アジアでの二輪・四輪用成形部品の受注拡大を目指しております。

海外生産拠点

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

上海



設立: 01/09

稼働開始: 02/03

■デジカメ用光学機器用などの精密成形品の製造を担当

THAI



設立: 01/01

稼働開始: 02/03

■自動車用他、精密成形品および精密金型製造を担当

蘇州



設立: 02/03

稼働開始: 03/10

■筆記具などの精密成形品製造を担当
■金型設計(CAD・CAM)を担当

INDONESIA



設立: 12/10

稼働開始: 13/10

■自動車用他、精密成形品および精密金型製造を担当

常州



設立: 02/11

稼働開始: 03/10

■主としてグループ内各社向けの精密金型製造を担当

3

2001年より海外展開を進め、中国・常州にコアビジネスである精密金型製造会社のほか、タイ及び中国に3拠点の成形品製造会社を稼動させております。

また、蘇州には当社グループの金型設計等(CAD・CAM)の生産性向上を図るために、設計センターを併設しております。

なお、2011年10月に発生した洪水により操業を停止したタイ不二精機は、2011年12月から移転した新工場で操業しております。

さらに、東南アジアでの自動車生産拠点の集中化に対応し、2012年10月に設立した不二精機インドネシアは、2013年10月より二輪・四輪部品等の成形品生産を開始しております。

14/12月期 第2四半期決算の概要

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

インドネシアの創業赤字発生

4

2014年12月期第2四半期の決算概要についてご説明いたします。

14/12月期第2四半期(累計)決算の概要

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

		13/6月期	14/6月期	増減額	増減率(%)
(百万円)					
売上高	連 結	2,182	2,419	236	10.8
営業利益	連 結	△55	△63	△7	-
経常利益	連 結	64	△114	△178	-
当期利益	連 結	51	△77	△129	-

連結決算のポイント

- ◆ 売上高は、東南アジア市場での自動車関連の成形品が増加し、前年同期比10.8%の増収
- ◆ 営業利益は、日本の増益があったものの、インドネシアの操業開始に伴い創業赤字が発生したことにより減益
- ◆ 経常利益・当期利益は、インドネシアの開業費償却開始・為替差益の減少などにより減益

5

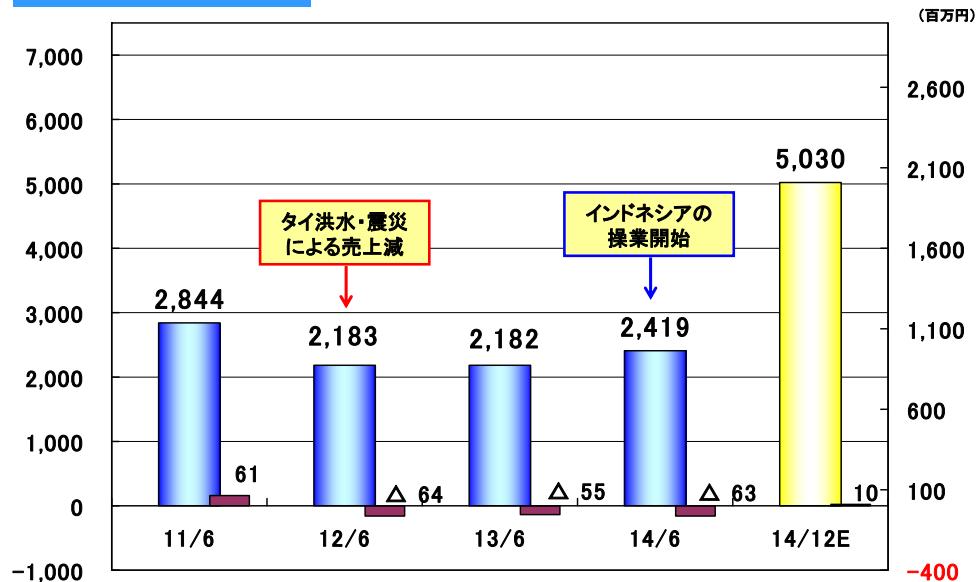
2014年第2四半期(累計)の売上高は、東南アジア市場での自動車関連成形品の増加などにより前年同期比2億36百万円(10.8%)増の24億19百万円となりました。

営業利益は、日本の精密金型事業・精密成形品事業ともに増益となったものの、不二精機インドネシアの操業開始に伴い創業赤字が発生したことなどにより、営業損失63百万円(前年同期は営業損失55百万円)となりました。

不二精機インドネシアの開業費償却を開始したこと、および為替差益が1億41百万円減少(前年同期は1億59百万円発生)したことなどで、経常損失1億14百万円(前年同期は経常利益64百万円)となり、洪水後遊休状態であったタイのアユタヤ工場の売却益42百万円を特別利益に計上したことなどにより、当期純損失77百万円(前年同期は当期純利益51百万円)となりました。

売上高と営業利益の推移(連結) PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

第2四半期決算の状況



6

2014年通期予想では、精密金型事業では主要顧客の設備投資意欲の回復を見込み、さらに精密成形品事業では不二精機インドネシアの立上げを加速することなどにより、東南アジアを中心とした売上の増加を見込むこと等で平成26年2月19日付公表予想の通り、売上高50億30百万円、営業利益10百万円の確保を目指します。

B/Sの主な増減科目(連結)

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

(百万円)	13/12期末		14/6期末		増減額	コメント
		構成比		構成比		
流動資産	3,056	48.3	3,091	49.3	35	
現金・預金	883	14.0	889	14.2	6	
受手・売掛金	1,086	17.2	1,075	17.1	△11	売掛金の減少
棚卸資産	667	10.6	776	12.4	109	製品・仕掛品の増加
固定資産	3,125	49.4	3,045	48.5	△80	タイ・アユタヤ工場売却による減少
資産合計	6,325	100.0	6,277	100.0	△48	
流動負債	3,129	49.5	2,976	47.4	△153	短期借入金減少
支払手形・買掛金	640	10.1	744	11.9	104	買掛金の増加
固定負債	1,806	28.6	2,008	32.0	202	長期借入金増加
負債合計	4,936	78.0	4,984	79.4	48	
純資産合計	1,389	22.0	1,292	20.6	△97	自己資本比率 △1.4%
負債・資本合計	6,325	100.0	6,277	100.0	△48	

自己資本比率 20.6%

7

当第2四半期末の総資産は、前連結会計年度末比48百万円減の62億77百万円となりました。主として、洪水後遊休状態であったタイのアユタヤ工場の土地・建物の売却によるものです。

負債は、前連結会計年度末比48百万円増の49億84百万円となりました。主として、生産高の増加により支払手形・買掛金が1億4百万円増加したことによるものです。なお、資金の安定化のため短期借入金から長期借入金へのシフトを実行しております。

純資産は、利益剰余金が減少したことなどにより、前連結会計年度末比97百万円減の12億92百万円(自己資本比率20.6%)となりました。

キャッシュフローの状況(連結)

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

累計期間(百万円)	13/第2四半期	14/第2四半期	増減額
営業活動によるキャッシュフロー	57	▲15	▲72
投資活動によるキャッシュフロー	▲280	26	306
財務活動によるキャッシュフロー	▲27	9	36
現金及び現金同等物の期末残高	911	887	▲24

キャッシュフローの増減要因

営業活動

主として、四半期純損失および増産による棚卸資産の増加によるものです。

投資活動

インドネシアの増設投資および遊休資産(タイ・アユタヤ旧工場)の売却収入によるものです。

財務活動

資金の安定化のため短期借入(1年内)から長期借入・社債へのシフトを実施していることによるものです。

8

営業キャッシュフローの減少は、主として、不二精機インドネシアの創業赤字による四半期純損失および生産高の増加による棚卸資産の増加によるものです。

投資活動では、インドネシアの新工場向け設備投資を継続して実行しておりますが、洪水後遊休状態であったタイのアユタヤ工場の売却収入により、投資活動によるキャッシュフローはプラス(資金増)になっております。

財務活動では、資金の安定化のため短期資金(1年内)から社債を含む長期資金へのシフトを実行し、年度末に向けては借入金の返済を計画的に実施いたします。

基本事業戦略

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

9

基本事業戦略についてご説明いたします。

◆基本戦略

将来にわたる収益確保のため
「金型専業」から「成形事業」へ
収益の柱のシフトを目指します

10

当社グループは、将来的に市場規模の縮小が想定される「金型事業」から、当社の金型技術がなくてはできない付加価値の高い成形品を選択した「成形事業」へ収益の柱のシフトを目指しております。

◆なぜ成形事業か

成形品は儲からない？

成形事業は、独自ノウハウの活用で
高収益事業化が可能です

“高生産性・収益性”の金型設計・製造
ノウハウを持つ不二精機グループだから
実現できる！

11

当社のコア技術である「高生産性・高収益性」の金型技術と、中国、タイの各成形工場の品質及び生産管理技術を融合させることにより、成形事業を安定的な高収益事業化を進めてまいります。

◆高収益性金型のポイント

- ①ハイサイクル化** … 1成形の時間
- ②多数個取化** … 1成形当たりの個数
- ③材料低減化** … ランナー重量減
- ④歩留り向上** … 良品率向上



12

①「ハイサイクル」とは、成形機に搭載された金型に溶融樹脂を注入～冷却工程にて金型内の樹脂を固化(金型形状の転写)～金型を開いて成形品取出し～型閉め工程を「1サイクル」とし、この一連の工程(サイクル)を高速化させることをハイサイクル化といいます。

このハイサイクル化を実現するためには、金型の高精度化に加え、金型冷却のノウハウや成形技術ノウハウが必要となります。

②「多数個取」とは、成形機の大きさに応じて決まる金型の大きさの制約の中で可能な限り多数の製品を配置する金型技術です。

また、多数個取金型は、製品寸法のバラツキを発生させないため、高精度加工、冷却回路等、非常に難易度の高いものづくりが要求されます。

③「材料低減」— 成形機で溶融させた樹脂を金型内に射出後、金型内に掘り込まれた湯道を通り、金型内の製品掘り込み部分に転写させますが、この湯道が「ランナー」と呼ばれています。(例: プラモデルの枝の部分です)

「ランナー」は製品を成形するために必要ではあるものの、製品には必要がなく、いわば成形工程における「材料ロス」です。

当社ではこのランナー重量(太さ・大きさ等)を、可能な限り少なくし安定した品質が実現できる金型づくりを行っております。

④良品率を向上するためには、金型の精度はもちろん、成形技術ノウハウが必要となります。

当社では、長年蓄積した金型完成後の試作データを元に、さまざまな特性を持つ樹脂成形にもそのノウハウを活かしております。

◆連結利益目標達成への課題

- ①国内金型市場の縮小への対応
(顧客の海外生産シフト)
- ②成形品事業の受注変動リスク低減
(安定稼動を目指した製品への集中)



年間平均稼動率を高める

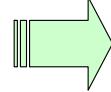
13

連結利益目標の達成に向けての課題は、製造業の海外生産シフトが進む日本の金型市場への対応および安定した稼動が利益に直結する成形品事業での受注変動リスクの低減であると考えております。

◆課題への対処

- ①関東工場(金型事業)の活用**
(顧客ニーズへの対応により新規受注獲得)
- ②営業活動の重点シフト(成形品事業)**
(海外の自動車関連部品の拡大へ集中)

稼動率安定



利益目標達成！

14

日本の金型事業においては、関東工場(2011年1月開設)をサービス拠点として活用することで、東日本地域のお客様のニーズにきめ細かくお応えすることにより新規受注の獲得に注力いたします。

また、成形品事業の稼動率安定に向け、受注の波が比較的少ない自動車関連部品(2輪・4輪)分野への集中と並行して、医療用品、食品容器などの分野の開拓に努めて参ります。

子会社を含めた生産インフラ・生産管理体制は整備されておりますので、年間の稼働率の安定により目標とする連結利益の達成を目指します。

なお、中期的な受注拡大に向けて、自動車市場の拡大が続くインドネシアに自動車関連部品を中心とした製造子会社を2012年に設立し、2013年10月より操業を開始しております。

2014/12月期事業計画

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

15

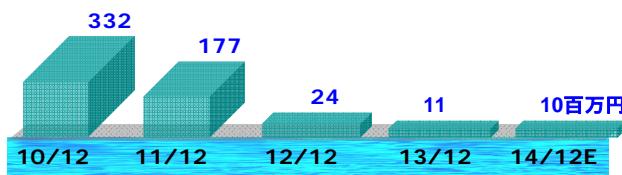
今期の事業計画をご説明いたします。

14/12月期通期計画(連結)

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

(百万円)	13/12月期	14/12月期計画	増減額	増減率%
売 上 高	4,718	5,030	312	6.6
売 上 総 利 益	817	878	61	7.5
販 管 費	806	868	62	7.7
営 業 利 益	11	10	▲1	▲9.1
経 常 利 益	31	▲94	▲125	—
当 期 純 利 益	41	▲45	▲86	—
設 備 投 資	676	157	▲519	▲76.8
減 価 償 却 費	272	325	53	19.5

営業利益の推移



<営業利益計画のポイント>

◆インドネシア創業赤字吸収
(当期は大幅な営業赤字想定)

*コスト構造の改革
①内製化 → 外注費削減
②自動化 → 人件費抑制

営業利益計画達成へ

16

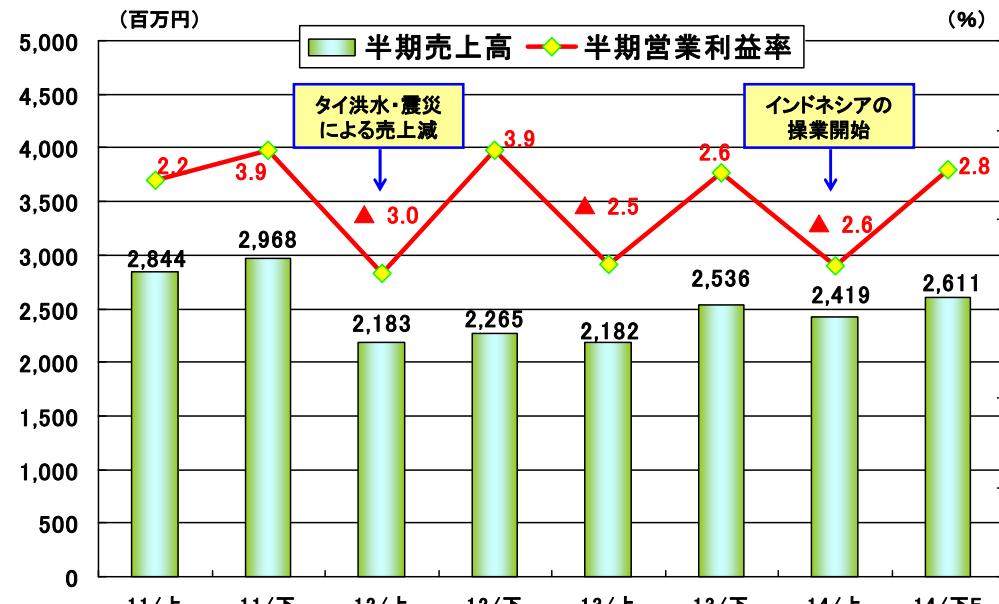
2014年12月期の売上高は、中国での医療用品関連の金型需要の拡大および、不二精機インドネシアの操業開始による自動車部品用成形品の受注増加を見込み増収を計画しております。

営業利益は、外注加工の内製化、自動化/半自動化による人件費抑制を中心としたコスト構造の改革を確実に実施することにより、不二精機インドネシアの大幅な創業赤字を吸収し、10百万円の黒字計画達成を目指します。

不二精機インドネシアの創業赤字・開業費償却および支払利息を織り込み、94百万円の経常損失、洪水被害により遊休状態であったタイのアユタヤ工場の売却益40百万円を特別利益に計上し、45百万円の当期純損失を計画しております。

半期毎の業績推移(連結)

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI



17

当上期から操業を開始する不二精機インドネシアで大幅な創業赤字が発生しますが、金型事業の徹底した原価低減活動などにより、連結ベースでの営業利益率改善を目指します。

中期事業戦略

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

18

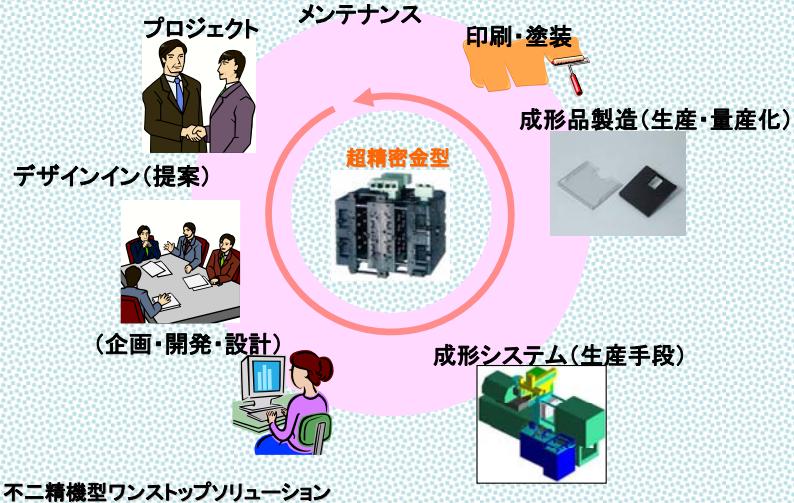
中期事業戦略についてご説明いたします。

中期基本戦略

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

“プラスチック精密成形総合システム会社”として、
不二精機型ワンストップソリューションを 今後もさらに展開する

【提案→開発・設計→技術→生産(量産)→保守→提案】



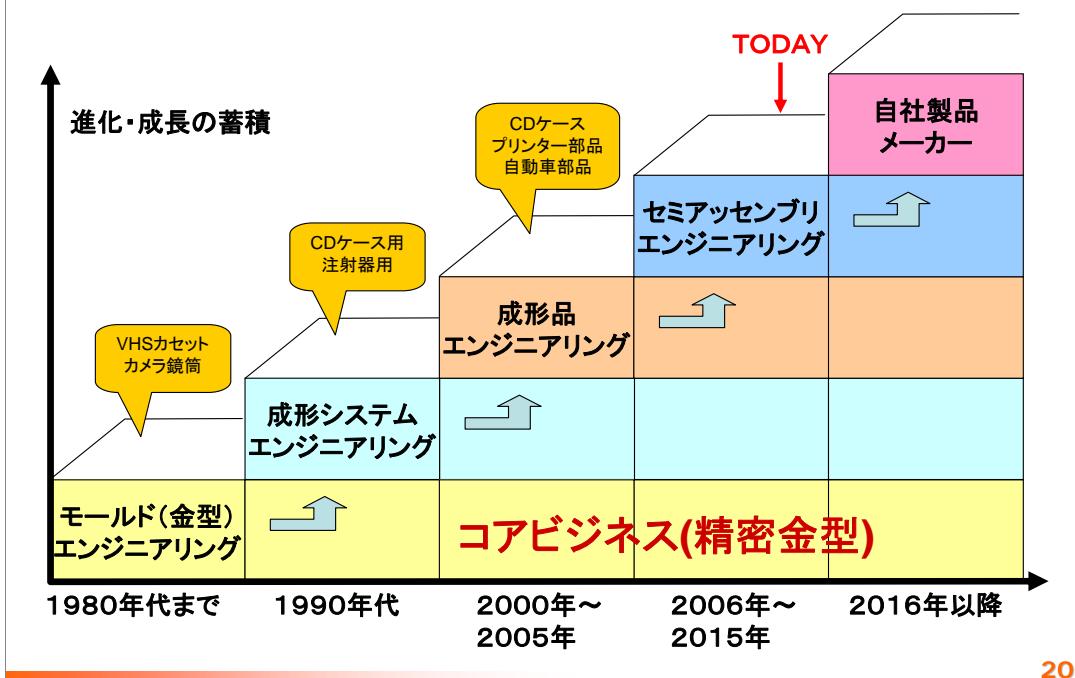
19

当社グループの総力で、金型の製作だけでなく、製品の企画段階より製品での納品まで(ワンストップソリューション)、精密金型技術をコア技術として、顧客のニーズに最適なものづくりを提案します。

もちろん、上図それぞれのステップ(金型製作のみ、成形品製造のみ等)単位でのご相談も承ります。

不二精機の歩みと今後

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI



20

1955年の創業以来、「精密小物向け金型では、他社に負けない」を合言葉に、着々と顧客のご支援を頂きながら成長してまいりました。

1984年頃には、金型から生み出される成形品そのものの精密さが必要とされる商品向けの精密金型に加え、成形品1個当たりのコストが重視される大量生産品向けの金型にも当社の精密金型を必要とされることから、大量生産品向けマーケットへ進出しました。

1990年代より、単に金型単体での販売だけでなく、顧客が求める成形品を生産するために必要な生産設備(成形機、取出し機、自動組立機等)も併せての販売を開始しております。

2000年からは精密金型をコアとし、タイ、中国にある当社海外グループ会社等において成形品製造・販売を主体としたビジネスを開拓しております。

2006年以降は、成形品の販売のみならず、成形品への印刷・塗装及びセミアッセンブリにも事業を拡大しております。

2016年以降には、当社グループの強みである精密金型技術を活かした自社製品メーカーを目指し、日々研鑽しております。

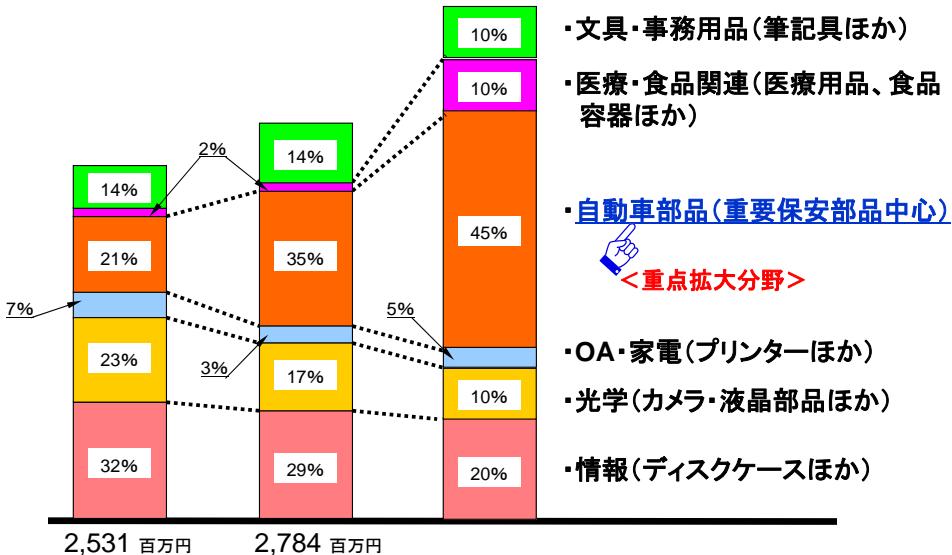
成形品売上＜分野別ターゲット＞

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

2012年
(実績)

2013年
(実績)

2016年
(ターゲット)



21

成形品売上の中で、付加価値率の低いディスクケース製品及び市場が縮小方向にあるデジタルカメラほかの光学分野の減少を計画しております。

受注の波が少ない自動車部品、医療用品、食品容器の分野の拡大に集中し、利益率向上の課題である年間平均稼動率を高めることにより、利益率の改善および利益額の確保を目指します。

当事業の拡大には、当社グループの強みである高生産性金型技術および品質管理の整備された成形品量産体制を戦略的に活用いたします。

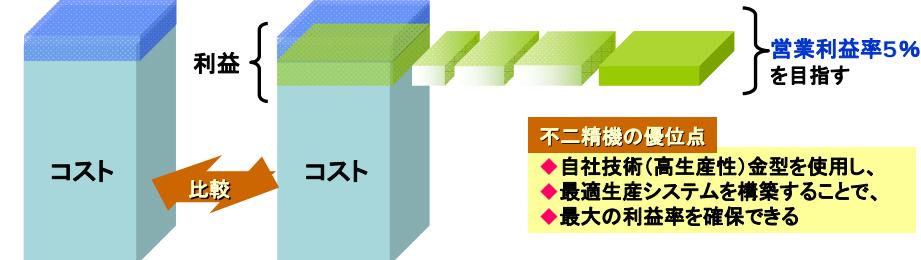
中期的展望

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

売上高



【一般の成形品製造】



不二精機の優位点

- ◆自社技術(高生産性)金型を使用し、
- ◆最適生産システムを構築することで、
- ◆最大の利益率を確保できる

22

2008年から2009年にかけて精密金型事業、精密成形品事業ともに世界同時不況により、2011年から2012年は東日本大震災およびタイの洪水の影響を受け減収となりました。

精密成形品事業では、安定稼動と利益率の向上を目指し、自動車部品、医療用品、食品容器などの分野の拡大を推進いたします。

精密金型事業においては、強みのある医療機器、食品容器ほかの金型販売および精密成形品事業の受注拡大につながる金型製造に注力いたします。併せて、さらなるコスト構造の改革により製造原価の低減を進め、当事業の利益率の改善を目指します。

以上の活動により、営業利益率5%の達成を中期目標としております。

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものであります。実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは異なる場合があり、この資料はその実現を確約したり、保証するものではございません。

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI



お問合せ先

管理本部
TEL:06-4306-6822

23

ありがとうございました。